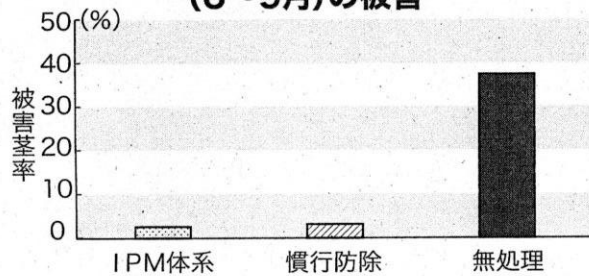


ネギアザミウマによるアスパラガス夏芽
(6～9月)の被害



アスパラガス栽培では、近年、ネギアザミウマとタバココナジラミの被害が問題となっています。ネギアザミウマ



アスパラの害虫防除

「IPM体系」が有効 品質も「慣行」と同等

量低下を引き起こします。本県で行われている半促成、長期どりは栽培期間が長く、収穫、栽培管理に加えて長期間病害虫防除をする必要があ

はアスパラガスの茎葉と収穫物の両方を食害し品質低下を、タバココナジラミは吸汁と排せつ物に起因するすす病の発生により光合成を妨げ収

り、化学農薬だけに頼らない害虫防除技術の開発が求められています。

そこで①天敵スワルスキーカブリダニを放飼する②天敵の増殖や生存に寄与するクサトベラ科の植物「スカエボラ」をアスパラガスハウス内に植栽する③夏季の殺虫剤散布回数を慣行防除から半減する——この三つの対策を施した総合的病害虫・雑草管理（IPM）体系の試験を行った結果、IPM体系は2種の害虫を慣行防除と同程度に抑え、収穫物の品質も同等になり、本技術による制御が明らかになりました。現地試験でも同様の結果となり生産現場での再現性が得られています。

詳細は農林技術開発センターホームページに掲載の「天敵を活用したアスパラガス害虫管理技術マニュアル」をご覧ください。

（長崎県農林技術開発センター 環境研究部門病害虫研究室 主任研究員 吉村友加里）